

龍谷大学

# 佛教学研究室年報

第28号

巻頭言

円珍撰述文献における華嚴文献の扱いについて

―「法華論記」「授決集」「観普賢経記」を中心に―

萩野 翔太……………

1

彙報……………

32

李通玄における「周易」の受容と華嚴思想

隆 明……………

52

『パーリ律』比丘尼犍度の翻訳と注解「Ⅱ」

サツチャーンナンデー……………

88

令和6年3月

# 龍谷大学仏教学院学生会則

## 第一章 総論

第一条 本会は、龍谷大学仏教学院学生会と称する。

第二条 本会は、院生の自治を基本として、学園の自由を擁護し、龍谷大学仏教学院生院生の研究活動の向上に努め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条 本会は、執行部を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

## 第二章 会員

第四条 本会は、次の会員を以て構成する。

### 一、正会員

龍谷大学大学院仏教学専攻に在籍するもの。

### 二、準会員

本会の主旨に賛同し、特に本会に認められたもの。

### 三、賛助会員

本会の主旨に賛同し、財政面での支援という形で協力するもの。

## 第三章 総会

第五条 総会は、本会の最高議決機関である。

第六条 総会は、本会の正会員をもって構成する。

第七条 総会は、正会員の三分の一以上の参加をもって開催することができる。

第八条 総会は、会長がこれを招集し、次の場合に開催される。

### 一、定期総会（毎年四月）

### 二、会長が必要と認めた場合。

### 三、正会員の五分の一以上の連署による請求があった場合。

総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

## 第四章 執行部役員

第十条 本会は、次の役員をおく。

- 一、①会長一名②副会長一名③会計一名④編集会員一名⑤会計監査一名⑥文学部院生協議会代表委員一名

二、ただし、①③以外の兼任はこれを妨げない。

第十一条 会長は、会員の推薦により総会の承認を得る。又、役員は、総会において正会員より選出する。

第十二条 会長は、本会を代表し、執行部は統括する。

第十三条 役員は任期は一年とし、再任並びに兼任を妨げない。

## 第五章 事業

第十四条 本会は第二条の目的を達成する為、次の事業を行う。

一、研究発表会、講演会等の開催並びにその援助。

二、出版物の刊行。

三、会員親睦に関する事業。

第十五条 第十四条一、二、の事業に関しては次のとおりに行う。

一、原則として正会員は、年一度研究発表をするを前提とし、その発表の場として定例研究発表会を行うものとする。

二、研究発表に関しては、次のとおりに行う。

イ、修士課程（以下Mと略す）一年は、一年間を発表猶予期間とみなし、翌年度初頭における研究過程報告会にて発表を行うものとする。

ロ、M二年以上は、修士論文提出前に行う中間発表をもって、これにかえることができる。但し、該当年度の論文提出を行わないものも、研究経過の発表をもってこれにかえることができる。

ハ、博士後期過程（以下Dと略す）は、何等かの研究雑誌に活字化された論文の発表を行う。

ニ、但し、D一年は、修士論文要約（『大学院紀要』に掲載分）をもってこれにかえることができる。

三、第十四条二の内、年一回は、研究雑誌の発刊を行うものとする。又、発刊に際しては、編集委員会を置き、本会執行部役員をもってこれを構成する。

イ、編集委員の内、編集委員長一名を互選し委員を統括するものとする。

ロ、但し、編集委員会が必要と認められた場合、若十名の委員を、正会員より委員長が任命することができる。

## 第六章 会計

第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七条 本会の経費は、還元金、会費、寄付金およびその他の収入とする。

正会員会費 年額 三、〇〇〇円

準会員会費 年額 二、〇〇〇円

賛助会員費 年額 二、〇〇〇円以上

第十八条 本会の決算報告は、監査委員の監査を受けた後、執行部が決算報告書を総会に提出し、その承認を得なければならない。

## 付則

一、本会則は、総会の決議により改変することができる。

二、本会則は、昭和六十年四月一日施行の龍谷大学仏教学院学生会会則の一部を改変し、平成三年五月一日より施行する。

三、平成六年四月十八日、一部変更。

四、平成二十四年十二月十二日、一部変更。

五、平成二十五年十二月十日、一部変更。

六、平成二十九年四月二十二日、一部変更。

『龍谷大学佛教学研究室年報』第二十八号が刊行されました。『年報』は、一九八五年（昭和六十年）に、仏教学大学院生の手によって刊され、爾来、院生が自主的に運営してきました。今年で三十九年の歴史を重ねることになります。

『年報』は大学院生や研究生などが、自ら研究成果を公表する場を確保し、同時に相互の研究意欲を高めていく目的で刊行されたものです。毎年の発行を目指してきましたが、その時々々の情勢もあつて、残念ながら刊行できない年もありました。昨今はコロナ禍の中、『年報』の継続が危ぶまれましたが、そのような状況下、ここ数年は毎年の刊行が為されてきたことには、心より敬意を表する次第です。

『年報』が廃刊や休刊に至ることなく、ここまで続けてくることができたのは、間違いなく院生等諸氏の研究への情熱によるものです。また、そのことは、これまで培ってきた仏教学教室の伝統の継続という使命感によるものとも言い換えることができるでしょう。この伝統を後輩たちにしつかりと受け継いでいってもらえることを、強く望んでいます。

今回の『年報』には、三点の意欲的な論文が掲載されています。各々の研究成果が公刊されたことは、たいへん嬉しく思っています。研究は論文発表が終着点ではなく、ここから新たな出発点であることを自覚し、更なる研究成果に結びつくよう研鑽を重ねられますことを念願しています。

# 彙 報

(2023年1月～12月)

## 2022年度 仏教学院生会員研究発表題目

《2022年度 龍谷大学佛教学會学術研究発表会》

2023年1月24日(火)

於：オンライン(龍谷大学主催)

・山名 深 (D2)

天台『観経疏』の構造について

一浄影寺慧遠『観経疏』との比較を通して一

・萩野 翔太 (D3)

初期日本天台における華嚴教学の影響について

## 2022年度 仏教学院生会員研究業績

・ティン マー ウー (研究生)

「法 (dhamma ダンマ) への信仰・儀礼について」

『佛教学研究室年報』第27号, pp.1-27, 2023年3月

・張 凱 (研究生)

「媽祖の諸経典と仏教的要素」

『佛教学研究室年報』第27号, pp.28-57, 2023年3月

・サッチャー ナンディー (研究生)

「『パーリ律』比丘尼犍度の翻訳と注解 (I)」

『佛教学研究室年報』第27号, pp.58-79, 2023年3月



・レ フー フーツク (研究生)

「『維摩經』における善巧方便について」

『佛教学研究室年報』第27号, pp.80-105, 2023年3月

・常 偉 (D3)

「普泰撰『八識規矩補註』に見られる明代唯識教学の一考察」

『佛教学研究室年報』第27号, pp.106-141, 2023年3月

・山名 深 (D2)

「浄影寺慧遠『観無量寿経義疏』の基礎的研究

—天台『観経疏』との比較を通して—」

『佛教学研究室年報』第27号, pp.148-170, 2023年3月

・魏 藝 (研究生)

「敦煌本『無量寿経義記』の思想及び成立期再考」

『佛教學研究』第79巻, pp.27-50, 2023年3月

・王 若實 (D2)

「契丹仏教における「不現前六師」説についての考察」

『佛教學研究』第79巻, pp.51-74, 2023年3月

・萩野 翔太 (D3)

「円珍撰『観普賢菩薩行法経記』における引用文献について」

『印度學佛教学研究』第71巻(2), pp.58-61, 2023年3月

「初期日本天台における被接の解釈をめぐって

—円珍『法華論記』と『授決集』を中心に—」

『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』第23号, pp.53-74, 2023年3月

## 2023 年度 仏教学院生会員研究発表題目

《日本印度学仏教学会 第 74 回学術大会》

2023 年 9 月 2 日 (土)

於：オンライン (龍谷大学主催)

・ 隆 明 (研究生)

李通玄における海雲比丘について

・ 安川 真由 (研究生)

〈大般涅槃經〉における天行について

・ 萩野 翔太 (D4)

初期日本天台における『法華論』解釈について

— 円珍『法華論記』を中心に —

・ 王 若寶 (D3)

契丹仏教戒律学写本・思孝集『毘奈耶藏近事優婆塞五戒本』と

その三教戒律観

・ 山名 深 (D3)

天台『観経疏』における発起序の形成過程

・ 浅井 教祥 (D2)

ツォンカパの『大乘莊嚴經論』における幻喩の解釈

2023 年 9 月 3 日 (日)

於：オンライン (龍谷大学主催)

・ 魏 藝 (研究生)

中国南北朝期における意生身問題の一考察

・ レ フー フーツク (研究生)

Upāya-kausalya, Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitā sūtra

・ 戴 篤 (D3)

遵式の施食作法

《第九屆漢傳佛教與聖嚴思想國際學術研討會》

2023年6月30日（金）

於：オンライン併用（中国・台北集思北科大会議センター主催）

・王 若寶（D3）

遼代仏教戒律の另一面 — 梵網菩薩戒在契丹一代の伝播与影響 —

《西山禪林学会》

2023年7月3日（月）

於：総本山永観堂禪林寺鶴寿台

・嶋本 弘徳（研究生）

「十四行偈」における菩薩観

《第一屆復旦大学仏学博士論壇 — 語言、文献与唯識哲学 —》

2023年7月8日（土）

於：オンライン併用（中国・浙江仏学院主催）

・王 若寶（D3）

契丹・日本・阿吒力教 — 也談清涼澄観所撰「受苦提心戒儀」 —

《日本宗教学会 第82回学術大会》

2023年9月10日（日）

於：東京外国語大学 府中キャンパス

・山名 深（D3）

浄影寺慧遠『観経疏』の受容背景について

《2023年度第八屆人間仏教研究奨学金【青年学者論壇】》

2023年11月4日（土）

於：中国・江蘇宜興大覚寺仏光山人間仏教研究院

・王 若寶（D3）

青年星云对日本佛教的反思与借鑒

## 《2023 年度 修士論文中間発表会》

2023 年 10 月 31 日 (火) 於：龍谷大学 (清和館 3F ホール)

- ・張 呈磊 (M2)  
初期日本天台における円密一致思想の研究  
—特に円仁、円珍、安然を中心として—
- ・松岡 史紘 (M2)  
南北朝時代の山東仏教の研究  
—龍興寺出土文物を中心にして—
- ・高見 美友 (M2)  
敦煌出土漢字写本における字形分析  
—藤枝分期法の検証を中心として—
- ・本多 花 (M2)  
玉虫厨子をめぐる考察  
—供養図を中心に—
- ・圓 妃菜子 (M2)  
仏弟子ピリンダヴァッチャ(Pilindavaccha)の研究

## 2023 年度 仏教学院生会員研究業績

- ・魏 藝 (研究生)  
「中国南北朝期における意生身問題の一考察」  
『印度學佛教学研究』第72巻(1), pp.26–31, 2023年12月
- ・安川 真由 (研究生)  
「〈大般涅槃經〉における梵行と四無量心」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第45集, pp.83–97, 2023年12月  
「〈大般涅槃經〉における天行について」  
『印度學佛教学研究』第72巻(1), pp.395–398, 2023年12月



・萩野 翔太 (D4)

「初期日本天台における『法華論』の解釈について

—円珍『法華論記』を中心に—

『印度學佛教学研究』第72卷(1), pp.65–68, 2023年12月

・王 若寶 (D3)

「契丹仏教における仏宮寺本『受戒発願文』についての再考

—教学的特徴を中心に—

『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第45集, pp.50–66, 2023年12月

・山名 深 (D3)

「天台『観経疏』における発起序の形成」

『印度學佛教学研究』第72卷(1), pp.50–53, 2023年12月

## 2023年度 院学生会活動報告

・仏教学院学生会総会 5月18日(木) 於：仏教学合同研究室

・卒業論文の書き方説明会 6月27日(火) 於：オンライン

・仏教学院学生会研究発表会 7月25日(火)

於：清和館3Fホール(オンライン併用)

・修士論文中間発表会 10月31日(火)

於：清和館3Fホール

・『龍谷大学佛教学研究室年報』第28号 発行 (3月)

本誌は創刊以来、龍谷大学仏教学科の院生の自主的かつ意欲的な姿勢による企画編集を経て、出版を実現してきました。近年は院生の人数減少もあいまって執筆者の減少が顕著でしたが、院生の研究成果を発表できる貴重な場が失われないようにと、毎年の発刊を目標につとめてまいりました。財政難により一時は発刊が危ぶまれた本誌ですが、賛助会員による温かいお力添えのもと、2017年度以降各号に執筆応募が増え、内容の充実した論文雑誌の刊行が継続できております。

ここに『龍谷大学 佛教学研究室年報』第 28 号の事業完了のご報告を申し上げますと共に、龍谷學會及び龍谷大学親和会、そして賛助会員をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、謹んで御礼を申し上げます。

2024 年 3 月吉日 龍谷大学仏教学院生会

龍谷大学 佛教学研究室年報 第 28 号	
2024 年 3 月 31 日 発行	
編集者	龍谷大学仏教学院生会
発行者	龍谷大学仏教学院生会 〒600-8268 京都府京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1 龍谷大学仏教学合同研究室内 TEL. 075-343-3311 (代)内線 5122
印刷所	株式会社 北斗プリント社 〒606-8540 京都府京都市左京区下鴨高木町 38-2 TEL. 075-791-6125

# BULLETIN OF BUDDHIST STUDIES

RYUKOKU UNIVERSITY

No. 28

## CONTENTS

Foreword

Citations of the Huayan Texts in Enchin's Texts :Focus on Hokkeron-ki, Jukesshū  
and Kwanfugengyō-ki

HAGINO, Shota ..... 1

The Acceptance Of The "Zhou Yi" And Huayan Thought By Li Tongxuan.

LONG, Ming ..... 52

Annotated Translation of Bhikkhonīkhandhaka of Pāḷi Vanaya (II)

THITSAR, Nandi ..... 88

March 2024